様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 3 日現在

機関番号：３５３０９

研究種目：基盤研究（Ｃ）

研究期間：2008～2010
課題番号：２０５９２６４６
研究課題名（和文）
養護教諭のコーディネーション能力育成プログラムの実践とモデル構築
研究課題名（英文）
Practice and model construction of the program that enhances Yogo teachers' coordination ability
研究代表者：　津島　ひろ江（TUSHIMA HIROE）
川崎医療福祉大学　医療福祉学部　教授
研究者番号：８０１１３３６４

研究成果の概要（和文）：
平成20年度は，特別支援学校における養護教諭のコーディネーション実践を分析した結果、コーディネーション過程とコーディネーション機能の構成要素、および必要な能力を明らかにした。平成21年度は、コーディネーション能力育成のための研修プログラムニーズを把握するために、全国の特別支援学校養護教諭を対象に自記式質問紙調査を実施した。それを受けて、医療的ケアにおける養護教諭のコーディネーション能力育成のための研修プログラムを作成し、平成22年度に研修会を開催した。その方法は参加しやすい短期研修（一日研修）にし、養護教諭が講義を受けるだけでなく、実践事例をグループワークで分析することを基本にした。研修前後のアンケートでプログラムの評価を行いその結果を基に今後も効果的なプログラムの開発を行いたい。

研究成果の概要（英文）：
In the 2008 school year, constituent elements for coordination process and for coordinative function as well as abilities needed for coordination were clarified from the analysis of coordination practice among Yogo teachers at a special support school. In the 2009 school year, a self-descriptive survey was conducted on Yogo teachers at special support schools nationwide, aiming to have a grasp of the needs of a training program to enhance Yogo teachers' coordination abilities. According to the findings, a training program that promotes Yogo teachers' coordination abilities in the need of medical care was drawn up, and a training session was held in the 2010 school year. The training session was made to be short-term (a one-day training session) so that Yogo teachers could attend it easily. In addition to lecture attendances, the training session basically consisted of group works in which the participants analyzed practical case studies. The training program was evaluated according to the questionnaires answered by participants before and after the training session. It is expected that effective programs will be developed based on the evaluation result.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
２００８年度	1,400,000	420,000	1,820,000
２００９年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000

総　計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：養護教諭，医療的ケア，コーディネーション能力育成，研修プログラム開発

１．研究開始当初の背景

近年の我が国の医療は、在宅療養をいかに展開するかが問われ、小児医療の分野においても、高度医療依存度の高い子どもが病院・施設から家庭へと、在宅医療の可能性が拡がりつつある。退院後の小児の発達を考慮した小児在宅ケアを進めて行くには医療の側面だけではなく、地域保健、福祉さらには教育をも保障したトータルケアの考慮が必要とされる。ノーマライゼーションの進展、在宅医療機器の開発、医療法の改正、就学基準の改正を背景に、特別支援学校（平成 18 年度までは養護学校）に在籍する子どもの学校現場では、経管栄養・吸引・導尿などの医療的ケアを必要とする子どもの在籍率が増加している。文部科学省と厚生労働省の検討のもとに、2004 年 10 月、学校に看護師を配置し、適切な指導の下に教員が痰の吸引・経管栄養・導尿などの 3 行為を行うことを容認するまでに至った。学校看護の分野においても、多職種、多分野、他機関との連携協力が不可欠となり、支援システムづくり（医療的ケア校内検討委員会など）やチームアプローチが進みつつある。特に医療的ケアを必要とする子どもの個々のケースには、学校保健・学校看護のキーパーソンとなる養護教諭をコーディネーターとし、ケアの調整、統合をし、ニーズを組織的に解決するような機能ができることを期待されているが、現実には個別のケースに対して、サービスを繋ぎ合わせ、整理する段階にとどまっている。我が国において、論文検索では、養護教諭の専門的立場からの「コーディネーション」機能が新たな役割として求められているが、その機能自体も明確化されておらず、 学校看護における養護教諭のコーディネーションの内容を分析・評価しているもの、さらには、コーディネーションのプロセスを経た養護活動の事例や研究は見当らない実態であった。

そこで研究者・分担研究者らは平成 17-18 年度基盤研究（C）の助成を受けて、「学校における医療的ケアの「コーディネーション機能」の明確化と習得プログラムの開発-養護教諭のコーディネーターとしての能力の向上に向けて一」を課題テーマとして研究を行った。これらの研究によって明らかにしたコーディネーションのプロセス、12 要素の抽出、能力についてまとめ、19 年度は学会発表を行ってきた。

２．研究の目的

本研究は、退院後においても医療依存度が高い子どもや重症心身障害をもつ子どもの在籍率が増加している学校において、学校保健・学校看護のキーパーソンとなる養護教諭のコーディネーション能力を高めるための研修プログラムを作成・実施・評価して、そのモデルを構築することである。特に、現在、医療的ケアの必要な子どもの在籍率が高く、看護師、理学療法士、作業療法士、主治医、学校医など学外者との連携とコーディネーションが求められている特別支援学校の養護教諭が対象となる。

３．研究の方法

平成 20 年度：コーディネーション過程における構成要素と能力の抽出

（１） 特別支援学校の養護教諭を対象に、個別のインタビュー調査を実施し、宿泊を伴う校外学習の実現に向けた学校内外のコーディネーション過程における各段階の構成要素およびその過程で必要とされる能力の抽出を行う。

（２）特別支援学校の養護教諭を対象に、フォーカスグループインタビューを実施し、多様な医療的ケアの支援における多職種との連携を実施するために必要な能力を抽出する。

平成 21 年度：現職養護教諭の研修ニーズ調査およびプログラム開発

（１）全国の特別支援学校の養護教諭を対象に、能力育成のための研修プログラムのニーズ調査を行う。

（２）研修プログラムの準備として、医学的見地、ケア技術の準備、海外（ハワイ州立学校）にて研修を行う。

平成 22 年度：コーディネーション能力育成プログラムの実践および評価

コーディネーション能力育成のための研修プログラムを作成、実践し、評価を行う。

（１）21年度の調査結果を基に、研修ニーズの高い項目と必要性の高い項目から研修プログラム案を作成する。

（２）平成22年度中に、川崎医療福祉大学にて研修会を実施する。

①研修は1日間とし、内容は講義と演習（グループワーク）で構成する。

②受講者は中国・四国地方、兵庫県、大阪府の特別支援学校養護教諭とする。

（２） 研修プログラムの評価を行う。

４．研究成果

（１）**コーディネーション過程における構成要素と能力の抽出**

インタビュー調査にて、コーディネーション過程における各段階の 19 の構成要素を明らかにした。ニーズの発見段階では、【成長・発達を願う教育的ニーズ】【安全な支援体制ニーズ】の 2 要素、アセスメントの段階では、【基礎情報収集】【医学的情報収集】【看護学的情報収集】【問題の明確化】【判断】の 5 要素であった。計画立案の段階では、【目標および役割の明確化】【専門性や意見・願いの尊重】【安全確保】【社会資源の活用計画】【計画の共有】の 6 要素で、実施の段階では、【役割実行】【専門的活動】【社会資源の活用】【権利擁護】の 4 要素であった。最後に評価の段階では、【目標達成度の評価】【コーディネーション過程の評価】【今後の展望】3 要素であった。従来の研究で課題とされた【成長・発達を願う教育的ニーズ】【安全な支援体制ニーズ】【安全確保】【権利擁護】の要素が認められた。

また、その過程で必要とされる能力には、『権利擁護能力』『健康管理能力』『医学的・看護学的知識力』、『関係調整能力』『情報収集能力』『企画運営する能力』『過程の把握する能力』『評価する能力』『コミュニケーション能力』、『カウンセリング能力』『調整能力』『教育実践能力』『組織活動能力』『専門性の理解能力』など 44 能力が抽出できた。

特別支援学校の養護教諭が、専門性としてコーディネーションを実施するためには、構成要素を達成していくことができる能力の必要性が示唆され、その能力獲得のための研修プログラムが必要であると示唆を得た。

	【カテゴリー(14)】 ［サブカテゴリー(44)］
コーディネーション過程に必要とされる能力	【関係調整能力】 ［保護者、教職員、他職種間の関係づくり能力］
	【コミュニケーション能力】 ［交渉する能力］［専門職とのコミュニケーション能力］［文章作成能力］［グループダイナミクスを行う能力］
	【権利擁護能力】 ［個人・保護者の意思を尊重する能力］［教育を受ける権利を保障する能力］［プライバシーを保護する能力］［他者や他職種の尊厳］
	【カウンセリング能力】 ［気持ちの受容・共感する能力］［メンバーの不安に対するサポート力］
	【医学的・看護学的知識能力】 ［医学的知識を理解する能力］［看護学的知識を理解する能力］［医療的ケアを理解する能力］［ヘルスアセスメント能力］
	【情報収集能力】 ［情報の収集・交換・整理・分析する能力］［判断する能力］［問題抽出する能力］［チームアプローチを理解・開始する能力］
	【教育実践能力】 ［成長・発達を理解する能力］［教育的観点から捉える能力］［個別計画に沿った援助能力］
	【組織活動能力】 ［先を予測し支援につなげる能力］［組織・体制づくり・連携を理解する能力］［ケアを協働して行う能力］
	【専門性の理解能力】 ［他職種の専門性を理解する能力］［役割分担する能力］［保護者の力を引き出すエンパワーメント能力］
	【企画運営する能力】 ［企画・シミュレーションする能力］［プレゼンテーションする能力］［効果的に会議を進行・運営する能力］
	【管理能力】 ［緊急時対応できる能力］［危機管理する能力］［日常的な健康管理能力］
	【調整能力】 ［リーダーシップをとる能力］［適時にメンバー間を調整する能力］［社会資源を活用する能力］［ネットワークの形成］
	【過程の把握能力】 ［コーディネーション過程を理解する能力］
	【評価する能力】 ［記録を活用する能力］［項目や基準を決めて評価する能力］［継続的アウトカム評価する能力］［進行状況を査定する能力］［メンバー構成を評価する能力］

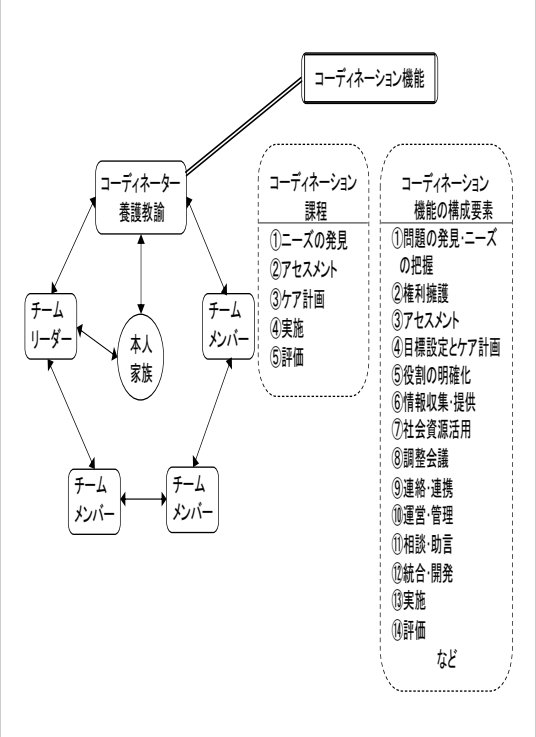

図1 チームアプローチと養護教諭のコーディネーション

（2）<u>コーディネーション能力育成のための研修プログラムニーズ調査</u>

全国の特別支援学校養護教諭を対象に、能力育成のための研修プログラムニーズ調査を行った結果、コーディネーション役割の重要性、および研修プログラム内容に対するニーズについて以下のことが明らかになった。

① 職務を行う上でコーディネーションは重要だと思うかという問いに回答した特別支援学校養護教諭の 95．9%が「非常に重要である」「やや重要である」とし、研修プログラムニーズ 48 項目中 21 項目について、半数以上の養護教諭が研修プログラム内容に「非常に重要である」と回答したことから、コーディネーション役割の重要性の認識、および研修プログラム内容への重要性の認識が確認された。

② 研修プログラム内容に「非常に重要である」と回答した 48 項目の内訳は、医

学的知識を身につけたいとするニーズ、コーディネーションのプロセスを進めるためのニーズ、チーム援助の体制・連携を進めるためのニーズ、会議等を運営していくためのニーズの 4 つの枠組みが明らかになった。研修プログラム作成における活用が示唆された。

③ ［チーム内でのグループダイナミクスの方法］［コーディネーション全過程に伴う予算化］の項目は、先行研究での課題とされていることから研修内容に入れる必要がある。

④ 病弱支援学校の養護教諭は、研修プログラム内容に［障害のある児童生徒等を教育的視点から理解する］項目への高い重要性を強く認識していた。

⑤ 肢体不自由支援学校の養護教諭は、研修プログラム内容に［チーム内でのグループダイナミクスの方法］［チーム内でのリーダーシップをとる方法］への高い重要性は認識されていなかった。

（3）<u>プログラムの実施および評価</u>

養護教諭を対象にして、「医療的ケアにおける養護教諭のコーディネーション能力育成研修」（平成 23 年 3 月 5 日）を開催した。午前中は今までの研究成果の発表、午後からは特別支援学校におけるコーディネーション３事例の分析をテーマとして、グループワークを行った。参加した養護教諭の総数は 65 名であった。（午後のグループワークは人数制限を設けたため、38 名であった）研修を終えた養護教諭からの自由意見として、「特別支援学校の事例を具体的に示していただいたことで、自分が実際に行っている場面をイメージし、考え理解することができた」「コーディネーションが重要であるとは思っていたが、より意識してコーディネーションする必要があり、養護教諭の重要な役割だと実感することが出来た」「校内においても校外においてもこの機能は発揮していくことが必要であると思うが、校内でまず基礎つくりをすると校外とのコーディネーションが上手くいくのではないか」等、多くの学びが記載されていた。

一方、「午後からのグループワークの時間が少なかった」という意見もあったため、今後は時間配分を含めて、「医療的ケアにおける養護教諭のコーディネーション能力育成研修」の内容を検討し、プログラム開発を継続していく予定である。

コーディネーション能力育成プログラム

時間	内容	テーマ	講師
9:30 ~10:30	講義	養護教諭の専門性 -コーディネーション-	荒木田
10:30 ~11:30	講義	養護教諭のコーディネーション過程	津島
11:30 ~12:00	講義	養護教諭に必要なコーディネーション能力	岡本
13:00 ~13:30	講義	特別支援学校における医療的ケアの体制	金島
13:30 ~15:00	グループワークによる分析	＜事例内容＞ ① 重症心身障害生徒のプール授業をうけるための体制作り ② 学校内における経口与薬の体制作り ③ 胃ろう造設に伴う新しい医療的ケアの体制作り	津島 岡本 下川
15:10 ~16:30	発表と討議	各グループによる分析の発表	齋藤

５．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 岡本啓子，津島ひろ江，小海節美，わが国における養護教諭のコーディネーションに関する研究動向，川崎医療福祉学会誌，査読有，2008，18(1)，255-262

② 岡本啓子，津島ひろ江，養護教諭のコーディネーション過程を構成する要素の明確化―特別支援学校養護教諭の実践の分析から―，日本養護教諭教育学会誌，査読有，2010，13(1)，55-71

③ 山田初美，津島ひろ江，A 特別支援学校（肢体不自由）における看護師の業務内容と業務量，日本小児看護学会誌，査読有，2010，19(1)，73-79

④ 下川清美，津島ひろ江，養護教諭のコーディネーション過程と必要な能力― 特別支援学校の養護教諭を対象に―，日本養護教諭教育学会誌，査読有，2011，14(1)，33-43

⑤ 岡本啓子，津島ひろ江，養護教諭のコーディネーション能力育成の研修プログラムニーズ―全国特別支援学校養護教諭への意識調査から―，学校保健研究，査読有、2011，53(3)，

〔学会発表〕（計４件）

① 近藤福美，津島ひろ江，全国特別支援学校における多職種導入と連携に関する実態，日本学校保健学会，2010 年 11 月 27 日，坂戸

② 下川清美，津島ひろ江，養護教諭のコーディネーションプロセスにおける促進要因に関する研究 - 医療的ケア必要児への実践を中心に -，第12回日本地域看護学会，2010年7月，札幌

③ 岡本啓子，津島ひろ江，養護教諭のコーディネーション過程の検討，日本養護教諭教育学会，2009 年 10 月 11 日，弘前

④ 下川清美，津島ひろ江，齋藤美紀，岡本啓子，板谷信雄，医療的ケアのコーディネーションに求められる能力 - 特別支援学校の養護教諭を対象に -，第12回日本地域看護学会，2009年8月，千葉

６．研究組織

(1)研究代表者

津島　ひろ江（TUSHIMA　HIROE）
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授
研究者番号：80113364

(2)研究分担者

荒木田　美香子（ARAKIDA　MIKAKO）
国際医療福祉大学・保健医療学部・教授
研究者番号：50303558

岡本　啓子（OKAMOTO　KEIKO）
畿央大学・教育学部・准教授
研究者番号：10382300

下川　清美　(SHIMOKAWA　KIYOMI)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師
研究者番号：80279356

齋藤　美紀　(SAITOU　MIKI)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・助教
研究者番号：30515789

(3)連携研究者

吉利　宗久（YOSHITOSI　MUNEHISA）
岡山大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：60346111

板谷　信雄（ITAYA　NOBUO）
九州保健福祉大学・社会福祉学部・助教
研究者番号：60232386

西牧　謙吾（NISHIMAKI　KENGO）
独立行政法人国立特別支援教育
総合研究所 上席総括研究員
研究者番号：50371711

(4) 研究協力者

金島　久美子（KANASHIMA　KUMIKO）
岡山県教育庁指導課・特別支援教育室・
指導主事（主任）